事例No.	2776
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	東大和市狭山緑地雑木林の会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口

事例種類	地域の課題解決

事例内容・タイトル

東大和市狭山緑地雑木林の会による里山再生活動

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



東大和市狭山緑地雑木林の会による里山再生活動

東大和市狭山緑地雑木林の会（ひがしやまとしさやまりょくちぞうきばやしのかい）

DATA

事　　例　名：東大和市狭山緑地雑木林の会
所　　在　地：東京都東大和市奈良橋1丁目249-1外
連　　絡　先：TEL 090-2473-7613（山本会長）
ホームページ：http://blog.livedoor.jp/zoukibayashinokai/

取組の概要

かつて農家の方々が手入れをしていた狭山緑地は、産業構造の変化やエネルギー革命により、薪炭林としての価値を失い、放置された暗い林になってしまい、生息している生物の種類も大幅に減少してしまう。そこで林の手入れをしようとボランティアで集結したのが東大和市狭山緑地雑木林の会である。木々の間伐及び竹林の手入れ、草刈りに生物調査などに取り組み、多数の生物が生息する里山の雑木林の復活を目指し、活動している。

評価された点

●1997年の活動開始から、地道に雑木林の保全活動に取り組み続けている点を評価。
●伐採、竹林の手入れ、草刈り、生物調査、来園者のガイド、交流イベントなどをボランティアで行っている点を評価。
●この活動を数十年続けてきて、会員が増えたということを評価。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 1996年～　手入れのされなくなった暗い森を、多くの生物が生息する、里山の雑木林として復活を提案。

・森の手入れをしようとボランティアが集結した。

1997年～　雑木林の会
・雑木林の維持管理をしようとボランティアが集結。里山の雑木林に復活させるため、維持管理の作業を開始。



・市役所、専門家の協力により「人と自然の共同作品」として生物が徐々に生息するようになった。

1999年～　炭焼き窯の作成
・間伐した樹木の後始末問題を解決するため、炭焼き窯の作成を開始。参考図書で勉強し、何度も設計試行を繰り返し、ようやく完成した。

・炭焼き窯で作った炭は地域住民に配布している。

2007年～　創立10年を迎える
・創立当初の密林状態から良好な雑木林へと変化し、「市民の憩いの場」として活用できるようになった。諸学校や教育機関からも利用者が増え、来園者が目に見えて増加した。

・一般市民に限らず遠足などでも利用されるようになった。

2019年～　管理事務所建替え
・狭山緑地の管理事務所（通称どんぐり小屋）を建替え。維持管理に使用する機材や打ち合わせスペースを創設し、イベントを通じて市民との交流の場を創設。



2020年～　ナラ枯れ調査
・市内でナラ枯れ被害が急拡大。被害を最小限に抑えるべく、ナラ枯れ被害樹木の調査を開始。

今後の展望
・継続すること。活動が近隣住民への配慮が求められるなど、環境が時代とともに変化していく中、時代にあう活動方法で、いのちの賑わう緑地にしていく。

受賞者のコメント

この度、ふるさとづくり大賞団体賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。平成8年度から発足した当会の活動が、表彰されることについて、大変光栄であります。

里山の雑木林の保全は、長い時間をかけての活動になるため、この賞を励みにすることで、今後も30年、40年と活動を継続し、将来へ貴重な自然環境を届けるために日々の活動を続けてまいります。